

# 基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) 2019 年改訂版

宇佐美 まゆみ

## 目次

1. はじめに.....	2
2. 発話文の認定について.....	2
2.1 発話文の認定方法とその例 .....	2
2.2 改行の原則 .....	4
2.3 発話文認定に関わる記号 .....	5
2.3.1 1 発話文が 1 ラインで終わる場合.....	5
2.3.2 1 発話文が複数ラインにわたる場合.....	6
2.4 「発話文番号」、「発話文終了」、「ライン番号」の列について.....	6
2.4.1 「発話文番号」.....	6
2.4.2 「発話文終了」.....	7
2.4.3 「ライン番号」.....	7
3. 表記方法と記号 .....	7
3.1 表記方法の原則 .....	7
3.1.1 基本的な表記.....	7
3.1.2 プライバシー保護に関わる表記 .....	9
3.2 BTSJ における記号 .....	12
3.2.1 直接引用部.....	12
3.2.2 音声的情報.....	12
3.2.3 周辺言語情報.....	14
3.2.4 複数の記号が必要な場合の記号の記載の順序 .....	15
3.2.5 コーディングと関係する記号 .....	15
4. 記号凡例.....	16
参考文献.....	20

## 1. はじめに

本稿で提示する「基本的な文字化の原則(BTSJ)」は、「読みやすさ」を重視し、日本語表記の慣習にしたがって「漢字仮名まじり」で表記する。句読点も、基本的に、慣例にしたがって適当と思われる位置に打つ(詳細は「3. 表記方法と記号」参照)。

自然会話の定性的分析だけでなく、定量的分析にも適するように考案された BTSJ では、「発話文」を基本的な分析の単位とする。以下、発話文の認定について、表記方法と記号、記号凡例について順に述べる。BTSJ で用いる記号は、但し書きのあるもの以外は全て半角で記入することを原則とする。

## 2. 発話文の認定について

以下、「発話文認定方法とその例」、また、それに関わる「改行の原則」、及び「発話文認定に関わる記号」、「発話文番号、発話文終了、ライン番号の列」について順に説明する。

### 2.1 発話文の認定方法とその例

BTSJ では、「実際の会話の中で発話された文」という意味で「発話文」という用語を用い、基本的な分析の単位とする。これは、日本語では、スピーチレベルの分析など、「文」単位でコーディングをする必要があるものが多いためである。

「発話文」の定義は、会話という相互作用の中における「文」とする。そして、以下のように認定する。基本的に、ひとりの話者による「文」を成していると捉えられるものを「1発話文」とする。しかし、自然会話では、いわゆる「1語文」や、述部が省略されているもの、あるいは、最後まで言い切られない「中途終了型発話」など、構造的に「文」が完結していない発話もある。そのような場合は、話者交替や間などを考慮した上で「1発話文」であるか否かを判断する。つまり、「発話文」の認定には、「話者交替」、「間」という2つの要素が重要になる。

たとえば、1語の発話(例 1)、文末が省略された形で言い切られた発話(例 2)、話者が自分で発話の最後まで言い切らず言いよんだ発話(例 3)や、第1話者の発話文が完結する前に、途中で挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した発話(例 4)などは、話者交替や間があった場合は、「1発話文」として扱う。いわゆるあいづちや笑いも、話者交替や間などを考慮して「1発話文」であるか否かを判断する(例 5)。

また、構造的には「文」となっているが、独立した1発話文とはみなさない発話もある。例えば、何かを思い出そうとするときなどに用いられる「そうですねえ、歩くとですねー、12、3分かかります。」などのフレーズは、先行部・後続部とまとめて「1発話文」とする(例 6)。直接引用を含む発話文も同様である(例 7)。さらに、同一話者による「そうです、そうです、そうです」などのような繰り返しも、「そうです」のみで「文」になっているが、それらのあいだに間がなく、繰り返されたものがまとまったものとして捉えられる場合は、それらをまとめて1発話文とする(例 8)。また、「行きますよ、学校に」のような発話は、「行きますよ」と「学校に」のあいだに間がない場合は、まとめて1発話文とみなす。この発話は、結果的に倒置の形となっている(例 9)。「行きますよ」だけでも「文」とみなしうるが、途中で相手の発話が入って話者が一旦交替したため改行され、複数のラインに渡っている発話も、同一話者によって発せられた「文」を成していると捉えられるものは、複数のラインにまたがる発話をまとめて「1発話文」とする(例 10、「2.2 改行の原則」を参照のこと)。

以下の各例において、見出しの説明が指す発話文を「→」で示す。説明が、「→」で指した発話文の中の一部を指す場合には、さらに該当する部分に波線を引いて示す(例 6、7、9、13 など)。また、以下の会話例では、話者はアルファベットの「A」「B」で示す(話者を表す記号に関しては、「3.1.2 プライバシー保護に関わる表記」を参照のこと)。各例文には、BTSJ 独自の記号がついているところがあるが、その説明は「4. 記号凡例」を参照されたい。

#### 例1 1語の発話文

1 A あの一、わたしとき、あのちょうど丙午‘ひのえうま’の世代なんですよ。

- 2 B 丙午‘ひのえうま’?。  
 →3 A ええ。  
 4 B 丙午‘ひのえうま’って、結構 20、20、あ 30 ぐらいの方でしたっけ。

例2 文末が省略された形で言い切られた発話文

- 1 A えっ、タイは どうしてそういうふう。  
 2 B あのね、もともと日本語学科の卒業生なんですよ、(あっ)私。  
 3 A え、こちらの学校?。  
 4 B ええ、[大学名称]なんですけど、で一、もう社会人を何年かしてるんですけど。

例3 話者が自分で発話の最後まで言い切らず言い淀んだ発話文

- 1 A あのーなんも面白いことがない(〈笑い〉)っていう…。  
 2 B どのあた、どのあたりですか?。

例4 第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に終了した発話文(7Aの発話により6Bの発話が最後まで言い切れなかったことが8B以降の発話で分かる)

- 1 A 彼女…今度ね、紹介してもらうんだよね。  
 2 B あ、まじで、何人目?、紹介してもらおうの。  
 3 A 高校入ってから(〈笑い〉)3人目ほど。  
 4 B (〈笑い〉)いい人は見つからない?。  
 5 A 見つからないね[低い声で]。  
 →6 B おれねー、中学んとき、〈恋の〉(〈)【。  
 →7 A 】【〈早く〉(〈)付き合いたいねー。  
 8 B あ、まじで。  
 9 B ほんとに?。  
 10 B 付き合いたいと思ってんの?、おまえ。

例5 前後に間があり、1発話文とみなされるあいづちや笑い

- 1 A まー、まー自分自身がもう、学校でたら、ねー、こういう学問の世界とは(〈笑い〉)〈笑い〉ながら(〈)ちょっと関係ない身分にあります(えーえー)ので、実用の世界にいる関係もありまして(あー)、なんかそういう研究をされ続けてるといのは。  
 →2 B ははは(〈笑い〉)。  
 3 B 研究してるのかなー(〈笑い〉)という、ちょっとなんかのほまーんとやっておりますが。  
 4 A いえいえいえ。  
 5 B あれですか、どういった関係のお仕事ですか?。  
 6 A あ、あのー会社自体はあのー食品を製造しているということで、ところで。  
 →7 B へー。

例6 構造的には文になっているが、独立した1発話文とはみなさず、その先行部・後続部とまとめて1発話文とするもの:フィラーの場合(以下の波線部)

- 1 A 不景気で(はい)なんか会社もなくて…。  
 2 B あはーそうですか。  
 →3 A 《沈黙4秒》あの、あれですよね、なんか社会人が、1年目っていうのはかなり厳しいもんがありませんでした?。

- 4 B 社会人…、そうですね。  
5 A うん何年目も厳しかったけど…(笑いながら)。

例7 構造的には文になっているが、独立した1発話文とはみなさず、その先行部・後続部とまとめて1発話文とするもの:直接引用を含む発話文の場合(以下の波線部)

→1 A であと一字を見ると“「姓 1」さんですか”って、さい、大体最初(はい)聞かれて、で、“「姓 1」さんですか”、(はい)“「姓 2」さんですか”、(はい)で、中には“「姓 3」さんですか”、《少し間》[息を吸い込んで] “どれも違うんだけど” (うんうんうんうん)とかって思い。

例8 1発話文になりうる発話が間を入れずに繰り返されているために、それらをまとめて1発話文とみなすもの

- 1 A かといって英語でしゃべろうとしても相手が英語できなかつたり(えー)すると。  
2 A だからちょっとー、ねー、せつかくなのにね(えー)コミュニケーションが(えー)図れないなと、いうこともあってね。  
3 B まーあれですよ、一番上達するのってそういう場っていう話もね。  
→4 A そうなんです、そうなんです、そうなんです。

例9 発話が一息に続いているため、1発話文と認められ、結果的に倒置の形になっているもの

- 1 A わたしは、あの、給与関係してるので、計算ばかりなんです、事務が。  
2 B あーあー。  
3 A だから、あまりこう文章書いたり作成したりするってことが(うーん)めったにないんで…。  
→4 A 時たまあるんですよね、そういうもの作ってくださいって。

例10 話者が一旦交替しても、同一話者によって発せられた「1発話文」とみなすもの(2-1と2-2とで1つの発話文とみなす)

- 1 A もう、もろ駅前商店街。  
→2-1 B 北浦とか、もっと、それよりもっと、  
3 A そうそうそうそう。  
→2-2 B 駅前。  
4 A あの、「店名」とかの近くです。

## 2.2 改行の原則

基本的には、話者が交替するたびに改行する。しかし、話者が交替しなくとも、同一話者が複数の「発話文」を続けて発するとき、は、「発話文」ごとに改行する(例11)。

例11 同一話者が複数の発話文を話す場合

- 1 A いや、や、や、やっぱり天気のほうがいいかな。  
→2 B 天気のほうがいいですね。  
→3 B 断然天気のほうがいいですね。  
→4 B 洗濯物もよく乾くし。

1発話文の途中で相手の発話が入った場合には、その途中の句末に英語式コンマ2つ「,,」をつけ、その発話文が終わっていないことをマークし、改行して相手の発話を記入する。この場合、例12で示すように、話者が交替しても同一話者によって発せられた、2-1と2-2とで1つの発話文とみなす。

例 12 1 発話文の途中で相手の発話が入った場合

- 1 A もう、もろ駅前商店街。
- 2-1 B 北浦とか、もっと、それよりもっと、
- 3 A そうそうそうそう。
- 2-2 B 駅前。
- 4 A あの、「店名」とかの近くです。

また、笑いは、通常、〈笑い〉のように、〈 〉の中に入れて示すが(3.2.3 周辺言語情報(2)笑い参照)、相手の発話に重なる短い小声の笑いやあいづち「うん」等は、( )に入れて、相手の発話の中の最も近いと思われる場所に挿入する(例 13)。

例 13 改行しないあいづちや笑い(以下の波線部)

- 1 A 僕自身は生まれも育ちも東京なんで、
- 2 B はいはいはい。
- 3 A あのーなんも面白いことがない(〈笑い〉)っていう…。
- 4 B どのあた、どのあたりですか？。
- 5 A えーと生まれたのが文京区で(はいはい)、で一幼稚園の(うん)年長の(うん)ときに板橋区高島平に、

## 2.3 発話文認定に関わる記号

上記で述べた「2.2 改行の原則」により、1発話文が 1 ラインで終わる場合と複数のラインにわたる場合がある。そのため、各ラインの末尾に、発話文が終了しているか否を区別する記号をつける。以下に、順に説明する。

### 2.3.1 1発話文が1ラインで終る場合

1発話文が終了したところには、その最後に必ず句点「。」をつける。その発話文が叙述なら句点「。」のみをつける。質問、確認等なら、「？」とそれに続けて句点「。」をつけ、「?。」という形にする。なお、疑問の終助詞(「か」等)がなくとも、イントネーションや文脈により、明らかに質問、確認等をしていると判断できるものには、「?。」をつける(「お名前は?。」等)。「?」の後に、「。」をつけるのは、「。」の数が発話文の数を表すようにするためである。

また、1 発話文として認定された笑いは、その音声を記し、「〈笑い〉」の後に句点「。」をつけ、1発話文であることが分かるようにしておく(例 14)。

例 14 笑いのみの発話文

- 1 A まー、まー自分自身ももう、学校でたら、ねー、こういう学問の世界とは(〈笑い〉)〈笑い〉ながらちよつと関係ない身分にあります(えーえー)ので、実用の世界にいる関係もありまして(あー)、なんかそういう研究をされ続けてるといのは。
- 2 B ははは(〈笑い〉)。

なお、発話文末が言い淀んでいると判断される場合は、「…」とそれに続けて句点「。」をつけ、「…。」という形にする(例 15)。

例 15 言い淀み:発話文末

- A それは、ちよつと…。

会話の中では、第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した形になる場合がある。このような場合は、第1話者の発話が非意図的に終了し、発話文として終わったことを表す記号「【】」(全角)をつける。結果的に終了させられた第1話者の発話文の終わりには、「。」の前に、第2話者の発話が挿入されたことによって結果的に発話が終了したことを示す記号「【】」をつけ、第2話者の発話文の冒頭には、その発話が第1話者の発話途中に挿入され、第1話者の発話を終了させたことを表す記号「【】」をつける(例16)。

例16 第1話者の発話文が完結する前に、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合

- 1 A それは、高校、でも<あの…><【】>。  
→2-1 B 【】<現代国語っていうと、><【】>あの、国語の…、  
3 A はい。  
2-2 B その、あっち、<ただですか?><【】>。

**2.3.2 1発話文が複数のラインにわたる場合**

1発話文の途中で相手の発話が入った場合には、例17に示すように、その途中の句末に英語式コンマ2つ「,,」をつけ、その発話文が終わっていないことをマークする。複数のラインにわたって記入された1発話文には、その複数のラインすべてに同じ発話文番号をつけ、ラインが変わっていても、それらの発話が「1発話文」を成していることが分かるようにしておく。

例17 1発話文が複数のラインにわたる場合

- 1 A もう、もろ駅前商店街。  
→2-1 B 北浦とか、もっと、それよりもっと、  
3 A そうそうそうそう。  
→2-2 B 駅前。  
4 A あの、「店名」とかの近くです。

つまり、1ラインの終わりには、必ず、句点(「。」、「?。」、「…。」)の3パターンか、英語式コンマ2つ「,,」のどちらかの記号がつくことになる。発話文末において、発話された音声やそれに関する情報を表すための記号を用いることがある(各記号については「4. 記号凡例」で詳述)が、そのような場合は、それらの記号を句点「。」や英語式コンマ2つ「,,」の前に記す。

**2.4 「発話文番号」、「発話文終了」、「ライン番号」の列について**

BTSJにおいて、「ライン番号」の列は、最初の発話のラインを1とした通し番号を付けた列である。これに対して、「発話文番号」は、以下の2.4.1で詳述する原則によって付けられた、BTSJ特有の番号を記す列である。「発話文終了」の列は、2.4.2で述べるように、発話文が終了したか否かによって、「\*」か「/」を記し、文末の「。」か「,,」との対応関係を確認することによって、入力ミスを防ぐことを目的として作られた列である。

**2.4.1 「発話文番号」**

「発話文」の数が分かるように、1つの発話文につき1つの番号を割り当てる。ただし、1発話文の途中で話者交替があって改行された場合には、1発話文が複数ラインにわたって記されることになる。その際、その複数ラインにわたっている発話が一続きの1つの発話文であることを示すために、該当する一連のラインに同じ発話文番号をつける。さらに、その1発話文内における各ラインの順番が分かるように、その中で通し番号をつける。たとえば表1の発話文番号44-1、44-2、44-3のようにする。そのため、発話文番号

は、トランスクリプトの中で必ずしも順番が若いものが先に来ないこともある。たとえば、以下の表1の発話文番号列において、45 の後に 44-2 が、46 の後に 44-3 が来ることもある。そのため、後述する「ライン番号」(2.4.3)を別に設ける。

#### 2.4.2 「発話文終了」

記入漏れ等のミスを防ぐため、BTSJ では、「発話文番号」とは別に発話文が終了している列には句点「。」とは別に「\*」を、発話文が終了してない列には「,,」とは別に「/」を記入する。つまり、発話文番号と「。」と「\*」の数、及び「,,」と「/」の数は必ず一致する。こうして、発話文を認定した結果は、「発話内容」の中の句点「。」と「,,」、及び「発話文終了」の列の「\*」と「/」という 2 つの列で二重に確認し、記載漏れを防ぐように工夫されている。

#### 2.4.3 「ライン番号」

BTSJ では、発話文番号とは別にライン番号を設ける。「ライン番号」は、最初の発話のラインを1とした通し番号である。ライン番号には、1ラインにつき1つの番号が割り当てられる。これに対して、「発話文番号」は、44-1、44-2、44-3 のように、複数の行にわたる場合があるので、必ずしもライン番号と一致しないので注意が必要である。

以下の表 1 に、「発話文番号」、「発話文終了」、「ライン番号」の列の記載方法をまとめて示す。

表1. 「発話文番号」、「発話文終了」、「ライン番号」の列の例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
43	43	*	YM01	どのあた、どのあたりですか?。
44	44-1	/	JBM03	えーと生まれたのが文京区で、(はいはい)で一幼稚園の(うん)年長の(うん)ときに板橋区高島平に,,
45	45	*	YM01	はいはいはい。
46	44-2	/	JBM03	えー引っ越しをして、でずーっとそこで、暮らしてて,,
47	46	*	YM01	うんうん。
48	44-3	*	JBM03	でーまあ稼ぐようになってからはやっぱり、ひと 1 人暮らし始めたんですけど。
49	47	*	YM01	はいはいはい。

### 3. 表記方法と記号

ここでは、BTSJ における表記方法の原則と、BTSJ で独自に用いる記号について説明する。また、複数の記号が必要な場合の記号の記載の順序も示す。

#### 3.1 表記方法の原則

表記方法は、基本的な表記とプライバシー保護に関わる表記の二つに分けて説明する。

##### 3.1.1 基本的な表記

BTSJ における表記は、読みやすさを考慮し、基本的には、日本語表記として一般的な漢字仮名まじりの形とする<sup>1</sup>。文字(漢字・仮名)および付属記号(読点「、」句点「。」)は全角で入力する。しかし、英数字お

<sup>1</sup> 主な使用言語を日本語とする研究者が多量のデータを処理する際は、ローマ字表記や平仮名表記よりも、より日常的に自然に用いられている表記法にしたほうが読みやすく、合理性を図ることができる。

よび記号の表記は半角とする(ただし、BTSJ で用いる記号の中には、全角でしか表せないものもある)<sup>2</sup>。

会話の音声的情報をできる限り正確に記述するため、複数の読み方があるもの(なんか、なにか、わたし、わたくし等)や、強調された発音(おっきな、ぜーんぜん等)、また、音が脱落したり、通常の発音からの逸脱が大きかったりするもの(せんせ(先生)、ふいんき(雰囲気)等)は、平仮名表記にする。また、通常とは異なる発音がなされた場合など、音の表記だけでは意味が分かりにくい発話は、「 ’ ’」の中に正式な表記を記入しておく(例 18)。

例 18 通常とは異なる発音がされた場合

A ども‘どうも’、こんにちは。

長音の表記については、概ね、以下の原則に従う(例 19)。

例 19 長音の表記の原則

副詞      こう そう ああ どう  
助動詞    よう そう  
応答詞    ええ はあ  
終助詞    ねー よー  
あいづち えーえー はー

また、読み方が複数ある言葉(例 20)や視覚的に漢字で表したほうが分かりやすい言葉(例 21)、読み方を入れたほうが分かりやすい地名(例 22)などは、漢字で記した後、その読み方を平仮名で「 ’ ’」に入れて示す。

例 20 読み方が複数ある言葉

例 17-1 A 明日‘あした’のご予定は?  
例 17-2 A 明日‘あす’のご予定は?

例 21 視覚的に漢字で表したほうが分かりやすい言葉

A あのちょうど丙午‘ひのえうま’の世代なんですよ。

例 22 読み方を入れたほうが分かりやすい地名

A 酒々井‘しすい’に行っただです。

視覚上、区別した方が分かりやすいと思われるものには、本や映画の題名(例 23)のような固有名詞や、発話者がその発話の中で漢字の読み方を説明した部分等(例 24)があるが、それらは、『 』でくる。

例 23 A あの、『ノルウェーの森』ってありますよね。

例 24 A 宇宙の『う』です。

数字の含まれる言葉の表記は、実質的に数量・順序を表す言葉に関しては、算用数字を用い(例 25)、

---

<sup>2</sup> トランスクリプトの共有のため、また、複数の研究者が処理を行う際の効率化のため、表記方法を統一しておくことを勧める。



漢字熟語の構成要素として用いる場合や概数を示す場合には、漢数字を用いる(例 26)ことを基本とする。

#### 例 25 算用数字で表記するもの

① 横書き表記の場合、算用数字(アラビア数字)は漢数字(一、二、三)より理解しやすいため、基本的には算用数字を用いる

##### 助数詞を伴う数字

1年、1回、1台、1家族、1種類、1周年、1区間、1品目、1段階、1機種、1系統、1工程

② 大きな数を書き表す場合について、算用数字で記すことのできるものは算用数字で記す<sup>3</sup>。

②-1 「万、億、兆」などの大きな単位

5万、31万7,000、1,500万、1兆5,000億

②-2 「十、百、千」の単位

50、300、4,000

#### 例 26 漢数字で表記するもの

① 漢数字そのものが漢字熟語の構成要素として用いられている場合(数字の意味が、数量、順序を示す用い方から離れて、特定の意味を持っているとき)は、漢数字を用いる。

①-1 漢字熟語

「一般、一定、一端」、「万一、均一、唯一」、「一面識、一喜一憂、一挙手一投足」

①-2 数字の意味合いの強い漢字熟語も、基本的には漢数字で書く

一周忌、一戸建て、一番乗り、一日署長、一家心中、第一線、世界一周、一万円札

② 概数を示す場合は漢数字で書く。

「数十日」、「四、五人」、「五、六十万」

また、読点は、基本的に慣例に従って打つ(例 27)。1発話文とみなされるものが倒置の形になっている場合は、発話文中に読点「、」を、発話文末に句点「。」を打つ(例 28)。倒置疑問の場合は、発話文中に「?、」と記入する(例 29)。

#### 例 27 慣例に従って読点を打つ場合

A それについて質問したり、みんなで討論したりするんです。

#### 例 28 1発話文とみなされるものが倒置となっている場合

A 行きますよ、あしたは。

#### 例 29 1発話文とみなされるものが倒置疑問となっている場合

A 行くの?、あした。

### 3.1.2 プライバシー保護に関わる表記

会話の内容は協力者のプライバシーに関わるため、BTSJ では、分析者用に会話の内容をそのまま文字化したトランスクリプトと、一般公開用のトランスクリプトと、2通りのトランスクリプトを用意することを原則とする。公開用トランスクリプトでは、協力者のプライバシーに関わる固有名詞などを明記しないようにする。ここでは一般公開用のトランスクリプトにおける協力者のプライバシーに関わる箇所の表記方法の原則について説明する。

<sup>3</sup> 例 25の②については文化庁(1995)を、その他の部分については文化庁(1991)を参照した。

例えば、初対面の会話においては、話者の名前の説明が行われたり、それにまつわるエピソードが話題になったりすることがあるが、そのような場合の、プライバシー保護を考慮した表記の原則を以下に示す。また、その他の固有名詞(「企業名」「大学名」「地名」など)についても、会話の流れから協力者が特定できる恐れがある場合には、話者の名前と同様に明記しないように処理する。

- ① BTSJ では、公開用のトランスクリプトにおいて、話者は、アルファベットなどに記号化して示すことを原則とする。その際に、話者の属性を表す記号を用いると話者同士の関係がすぐわかり、便利である。例えば、ある男性話者の言語行動が異性の対話相手の年齢に応じてどのように変化するかを分析する際、その男性の話者を、BM(Base Male)とし、対話相手となる年上の女性をOF(Older Female)、同年の女性をSF(Same-age Female)、年下の女性をYF(Younger Female)などと記号化する。また、日本語と韓国語の対照研究をする場合は、日本語母語話者を J(Japanese)、韓国語母語話者を K(Korean)としたり、母語話者と非母語話者の会話を研究対象とする場合は、母語話者を NS(Native Speaker)、非母語話者を NNS(Non-Native Speaker)としたりするなど、任意の記号を用いて表す。目的によっては、「A」「B」といったアルファベットを用いても、「田中」「佐藤」などの仮名を用いて表してもよい。
- ② 名乗り方に応じて、「BM03 姓」「BM03 名」「BM03 フルネーム」というように記す (例 30)。
- ③ 姓や名に使われる漢字が 2 つ以上出てくる場合は、「漢字 1」「漢字 2」のように記す(例 31)。
- ④ 自分の名前に使われている漢字の説明のために、具体的な熟語などを用いた場合、それを明記しないように、「漢字 1 を含む言葉」などと記す(例 32)。
- ⑤ 固有名詞を発音している際、その一部が相手の発話に重複している場合には、アルファベットの「N(Name)」を用いてその拍数を示し、どの部分が重複しているか明確にし、その後には伏せられた固有名詞が何のことであるか分かるようにしておく(例 33)。
- ⑥ 会話に、名前の読み方に関するエピソードが含まれており、名前の読み方が複数出てくる場合は、「姓 1」「姓 2」というように記す (例 34)。
- ⑦ 「会社名」や「大学名」などの組織の名称、話者の出身県を含む「地名」等の記述に関して、話者のプライバシーに関わる場合は、「地名 1」のように伏せて記す。(例 35)。

#### ●話者の名前が話題になっている場合

<sup>やまざき</sup>  
[山崎さん: 山→「漢字 1」、崎→「漢字 2」]

##### 例 30 名乗り方に応じた記し方

<音声に忠実に文字化したトランスクリプト>

例 30-1 OF01 《沈黙 6 秒》山崎と言います。

<公開用トランスクリプト>

例 30-2 OF01 《沈黙 6 秒》「OF01 姓」と言います。

##### 例 31 姓や名に使われている漢字が 2 つ以上出てくる場合

<音声に忠実に文字化したトランスクリプト>

例 31-1 BM02 崎は普通の。

OF01 山偏の<崎>です<{}>。

BM02 <山偏の>{}崎で。

<公開用トランスクリプト>

例 31-2 BM02 「漢字 2」は普通の。

OF01 山偏の<「漢字 2」>です<{}>。

BM02 <山偏の>{}「漢字 2」で。

例 32 自分の名前に使われている漢字の説明

<音声に忠実に文字化したトランスクリプト>

例 32-1 OF01 山は、あの、富士山の山です。

<公開用トランスクリプト>

例 32-2 OF01 「漢字 1」は、あの、「漢字 1 を含む言葉」の「漢字 1」です。

例 33 固有名詞の一部が相手の発話に重複している場合

<音声に忠実に文字化したトランスクリプト>

例 33-1 BM01 やまざきくさく、,

OF01 <や>まざき。

BM02 山崎さん。

<公開用トランスクリプト>

例 33-2 BM02 「OF01 姓」くさく、,

OF01 <N>NNN[OF01 姓を 1 拍ずつ発音する]。

BM02 「OF01 姓」さん。

<sup>しろみず</sup>  
[白水さん(仮名)]

例 34 名前の読み方が複数出てくる場合(以下の波線)

<音声に忠実に文字化したトランスクリプト>

例 34-1 BM03 であと一字を見ると“しろみずさんですか”って、さい、大体最初(はい)聞かれて、で、“しろみずさんですか”、(はい)“しらみずさんですか”、(はい)で、中には“はくすいさんですか”、《少し間》[息を吸い込んで]“どれも違うんだけど”(うんうんうんうん)とかって思い。

YM01 そっかー、初めてですよ。

BM03 ええ。

BM03 いや、今日困ったのが、今日あの一朝来るとき、えー来る前かな、(はいうん)あの一選挙があったんで、(はい)投票所行って、(はい)で一選挙人名簿見たら、“しろみずさんですか”、“あのーすいませんしろみずなんです(笑い)けど”って。

<公開用トランスクリプト>

例 34-2 BM03 であと一字を見ると“「姓 1」さんですか”って、さい、大体最初(はい)聞かれて、で、“「姓 1」さんですか”、(はい)“「姓 2」さんですか”、(はい)で、中には“「姓 3」さんですか”、《少し間》[息を吸い込んで]“どれも違うんだけど”(うんうんうんうん)とかって思い。

YM01 そっかー、初めてですよ。

BM03 ええ。

BM03 いや、今日困ったのが、今日あの一朝来るとき、えー来る前かな、(はいうん)あの一選挙があったんで、(はい)投票所行って、(はい)で一選挙人名簿見たら、“「姓 1」さんですか”、“あのーすいません「BM03 姓」なんです(笑い)けど”って。

●名前以外に、会話の流れから協力者が特定できる可能性のある固有名詞の場合

- 例 35 BM01 ウ冠に「漢字 6」…、あれ、昔「企業名」があったところ?<く>。  
JSF01 <そうそう>です、「地名 1」です[BM01 が息を吸う音]、うん。  
BM01 はあ、はい、へえ。

### 3.2 BTSJ における記号

発話された音声やそれに関する情報を文字化資料として記述するには、それらの情報を表すための記号を用いることが必要である。そこで次に、直接引用部、音声的情報、周辺言語情報、プライバシー保護といった、発話に関するさまざまな情報を記述する際に必要な記号を提示していく。尚、BTSJ で用いる記号は、但し書きのあるもの以外は、すべて半角で記入することを原則とする。さらに、複数の記号が同時に表記される場合の記載の順序も示す。

#### 3.2.1 直接引用部

引用とはある発話・思考の場で成立した(あるいは成立するであろう)発話・思考を新たな発話・思考の場に取り込む行為である(鎌田, 2000:17)。会話における話者本人のスピーチレベルの選択を分析するなど、研究目的によっては、発話文中から、直接引用部を区別しておく必要がある場合がある。そこで BTSJ では、ある場面において発せられた話者自身や話者以外の者の思考・判断・知覚などの内容を、現在の発話の場面において、その時発せられたかのように発話している部分を、直接引用部と定義し、その部分を“ ”でくることにする(例36、37)。

##### 例 36 話者自身の思考・判断・知覚などの内容が直接引用された場合

A “うんーなんだこりゃー”って感じ。

##### 例 37 話者以外の者の思考・判断・知覚などの内容が直接引用された場合

A って言ったら、“あー、講堂の、あの「講堂名」なんとかっていう有名な所でしょ”って言われて…。

その発話が直接引用されたものかどうかは、声の調子や言葉遣いの変化などから判断する。実際の会話では、たとえば「あの結婚して下さいってく笑い」言っただけなんですけど…」という発話文において、話者が、下線部を、声の調子を変え、発話している場合には、下線部を直接引用部と認定し、その部分を“ ”でくくり、「あの“結婚して下さい”ってく笑い」言っただけなんですけど…」と記述する。なお、下線部を間接引用と認定した場合は、引用部分を“ ”でくらず、「あの結婚して下さいってく笑い」言っただけなんですけど…」と記述する。

#### 3.2.2 音声的情報

BTSJ では、発話の文脈や状況をできるだけ正確に伝えるための基本的情報として、イントネーション、ポーズや沈黙、ラッチング、言い淀み、発話の重複、聞き取り不能な音などを記述する。そのために、BTSJ 独自の記号を用いる。以下、順に説明する。

##### (1) イントネーション

イントネーションは、特記する必要があると判断したものを、[↑][→][↓]で表す(例 38)。また、確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」には、「??」をつける(例 39)。

##### 例 38 特記する必要があるイントネーション

A じゃあも、それだけがお仕事?[→]。

##### 例 39 半疑問文

A いえ、わたし、あの一大塚??、なんです。

##### (2) 間、沈黙

発話文中に短い間がある場合は、読点「、」を打つ(例 40)。

##### 例 40 発話文中に短い間がある場合

A あー、した‘明日’です。

話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際は、《少し間》と記すが、原則として、1 秒以上の「間」は、沈黙としてその秒数を《沈黙5秒》のように記す。沈黙自体が何かの返答になっているような場合は1 発話文として扱い1 ライン取るが、基本的には、沈黙後に誰が発話したのかが分かりやすいように、沈黙を破る発話のラインの冒頭に記す(例 41)。

例 41 2 人の発話の間に、沈黙が 5 秒あった場合

- 1 A あの一、2ヶ月に1回です。  
→2 B 《沈黙5秒》ふうん。

### (3)ラッチング

改行される発話と発話の間が、当該の会話の平均的な間の長さより相対的に短いか、間がまったくなくなるときにラッチングとして、「=」という記号を用いて表す。これは、2 つの発話(文)として、改行されていても、それら2つが音声的にほとんど間がなくつながって発話されたことを示すためである。改行されている2つの発話のラッチングは、同一話者のものにも、そうでない場合にも適用される。ラッチングは、最初のラインの終わりに「=」をつけ、続くラインの冒頭にも「=」をつける<sup>4</sup>ことによって表す。

- 例 42 →1 A だっしょうがないでしょう=。  
→2 A =本人がそう言ったの。

### (4)言い淀み

発話文中、文末に関係なく、音声的に言い淀んだように聞こえるものには「…」をつける(例 43、44)。もし言い淀みが発話文中にあれば、「…」に読点をつけ「…、」という形にし、その後の語句を続けて記入する(例 43)。

例 43 音声的に言い淀んだように聞こえるものがあつた場合(発話文中)

- A 目白ですと、バス…、ですか？。

例 44 音声的に言い淀んだように聞こえるものがあつた場合(発話文末)

- A それはまた学校で充電しといて、また帰りは、って…。

### (5)発話の重複

同時発話されたところは、重なった部分双方を< >でくる。重ねられた発話には、< >の後に、{ }をつける。また重ねた方の発話には、< >の後に、{ }をつける(例 45)。

例 45 2 人の発話が一部重なつた場合

- 1 A それは、それは、<ごくろうさまです>{ }。  
→2 B <いえいえ>{ }。

発話の途中で相手からの重複があつた場合は、重ねられたことを表す重複記号< >を入れた後に「,,」をつけて改行する(例 46)。

<sup>4</sup> 表計算ソフトでは「=」が数式と判断される。それを避け文字として認識させるため、「=」の前に「'」(アポストロフ)をつけるなどの処置をする。こうすると、紙面上には「=」だけが表れる。

例 46 発話途中で相手からの重複があった場合(正しい文字化の仕方の例)

- 1 A 新聞の場合は(んー)そうですね、(ああ)はい。  
→2-1 B 向こうから依頼が来る、<のも>{<},,  
→3-1 A <のは>{<}},,  
→2-2 B あるわけ?[↓]。  
→3-2 A 雑誌はそうなんですけど、(ええ)今んところ新聞はそういうかんじですね。

しかし、例 47 に示したように、重ねられたことを表す重複記号のあとに、発話内容を記すことは、時間的整合性を欠くので行わないよう注意する必要がある。

例 47 重ねられた発話の後に、重なっていない発話内容を記した例(誤った文字化の例)

- 1 A 新聞の場合は(んー)そうですね、(ああ)はい。  
→2 B 向こうから依頼が来る、<のも>{<},あるわけ?[↓]。  
→3 A <のは>{<}},雑誌はそうなんですけど、(ええ)今んところ新聞はそういうかんじですね。

(6) 聞き取り不能

聞き取り不能であった部分に、その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける(例 48)。

例 48 →A わたしなんか、#####全くないもんね。

3.2.3 周辺言語情報

笑いや、相手の発話に重なる短いあいづちなどの周辺言語情報については、以下のように記す。また、「文脈情報」は、分析者の覚書きとして、分析者が必要だと判断した情報を、分析者自身が分かりやすい書き方で、記しておく。

(1) 相手の発話に重なる、短いあいづち

相手の発話に重なる、短く、特別な意味を持たないあいづちは、相手の発話中の最も近い部分に、( )にくくって入れる(例 49)。

例 49 A わたしは、あの、小学部中学部にいたん(ふうん)ですけれども。

(2) 笑い

笑いながら発話したものや笑い等は、< >の中に、<笑いながら>、<2人で笑い>などのように説明を記す。笑いが比較的はつきりと聞こえる場合は、「はははは<笑い>」のように記す。笑い自体が何かの返答になっているような場合は1発話文とするが、基本的には、笑いを含む発話中か、その発話文の最後に笑いに関する情報を記し、その後には句点をつける(例 50、51)。

例 50 A え、あの意外と集中できるんですねえ、はははは<笑い>。

例 51 A 資源効率的に使おうと思えば、<笑いながら>それしかないわけですから。

また、相手の発話の途中で、相手の発話と重なって笑いが入っている場合は、短いあいづちと同様に扱って、(<笑い>)とする(例 52)。

例 52 A あのーなんも面白いことがない(<笑い>)っていう…。

### (3) 文脈情報

その発話がなされた状況ができるだけ分かりやすくなるように、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどを、研究者が分析の際のメモとして活用できるよう [ ]に記しておく(例 53, 54)。

例 53 [ささやくように]、[息を吸い込みながら]、[大きい声で↑]、[飲み物を飲む音]等。

例 54 A こたつから根生やしてんじゃないか<笑いながら>って父親と弟は  
一切動かない[不満を打ち明ける感じで]。

また、文字化資料を読むだけではわかりにくい発話について、説明を記す(例 55)。

例 55 B 制度わかる?[留学先の日本語クラスのレベル分けを知っているかと尋ねている]。

#### 3.2.4 複数の記号が必要な場合の記号の記載の順序

複数の記号が同時に表記される場合の順序は、以下の通りとする。発話文末では、重ねられた発話の記号< >、笑い< >、文脈情報[ ]、ラッチング=、第1話者の発話文が結果的に終了させられた記号【、句点(あるいは英式コンマ2つ)の順となる。発話文冒頭では、第1話者の発話文を結果的に終了させた記号【、ラッチング=、文脈情報[ ]、笑い< >、重ねた発話の記号< >、という順になる(例 56)。

例 56 A そんなことあるなんて<思わな><><笑い>[驚いたように]= 【。  
B 【】=[早口で<笑い>×最初は<>{>何が何だかわからなくて。

#### 3.2.5 コーディングと関係する記号

研究者が扱う分析対象とする要素が、場合によっては、1 発話文中、あるいは通常の 1 ライン中に複数現れることがある。複数の要素をコーディングするのに1つのセルしかないとき、コーディングができない。このような場合には、複数の要素を個々にコーディングできるように、各分析対象項目の後ろに「&」をつけて改行し、1つの要素につき1つのコーディングセルが割り当てられるようにする。つまり、「&」は、BTSJ の本来のルールでは改行されないが、1 発話文内の複数の要素をコーディングしたい場合に、便宜上改行することを示すものである。

ここでは、「&」を用いて便宜的に改行する場合の具体例として、あいづちのコーディングを取り上げる。あいづちについても、様々な観点から、個々の研究者の目的に応じた分析がなされ得るが、ここでは、その一例として、1 発話文中に複数回現れることの多い「相手の発話に重なる短い小声のあいづち」を分析対象とする場合のコーディング例を提示する。

1 ライン中に複数のあいづちが現れた場合は、1つのあいづちにつき1つのコーディングセルを割り当てるためには、あいづちが現れたところでそのつど改行する必要がある。その場合、あいづちの後に「&」をつけて改行する。改行した場合は、その発話文がまだ終了していないことを明示するために、ラインの末尾に「,,」を付ける。本来は 1 発話文であるため、発話文番号は同じであるが、「&」をつけて改行された発話の順にそって、発話文番号に「-」をつけて、小文字のアルファベットを記す。この場合、アルファベットを用いるのは、複数ラインにわたる発話文番号の通し番号(以下の表2の53-1、53-2、53-3/54-1、54-2)と区別するためである。

表2に、「あいづち」をコーディングする場合の「&」の使用例を示す。

表2 コーディング項目が1発話文中や1ライン中に複数出てくる場合

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	小声のあいづち
53	52	*	F06	あたしルールわかんないけど。	na
54	53-1	/	F05	いや、だから<(>)&,	- ←
55	54-1	/	F06	<学校>(>)の、	- ←
56	53-2	/	F05	3分‘ぶん’のなにか、	- ←
57	54-2	*	F06	<決まり>(>).	na ←
58	53-3	*	F05	<決まって>(>)てー。	na ←
59	55	*	F06	そうだよなー。	na
60	56	*	F06	困ったね。	na
61	57	*	F05	[息を吸い込んで]でもなー、やんなと思うんだ。	na
62	58	*	F05	だって、どっさり遅れてるからー(うん、うん)。	うんうん
63	59	*	F06	2対1なの?、じゃあ今。	na
64	60	*	F05	にいいいち[2対1]。	na
65	61	*	F05	うん。	na
66	62	*	F06	授業参観、何言われた?<笑いながら>。	na
67	63	*	F05	えー、授業参観ねー、何かねー<笑い>、やだったのよ<2人で笑い>。	na
68	64	*	F05	あ、授業参観、なんか、2個あったじゃん。	na
69	65	*	F06	うん。	na
70	66	*	F05	校長と教頭のやつ。	na
71	67	*	F06	うん、わかんない。	na
72	68	*	F06	=2個あったの知らない。	na
73	69-a	/	F05	校長と教頭のやつは(うん)&,	うん ←
74	69-b	/	F05	何事もなく(うん)&,	うん ←
75	69-c	/	F05	その後なんにもフィードバックも(うん、うん)&,	うんうん ←
76	69-d	*	F05	何にもなく(うん)、<普通の>(>).	うん ←
77	70	*	F06	<まー、形>(>)だけだよな。	na

#### 4. 記号凡例

これまでに提示してきた BTSJ で用いられる記号を以下にまとめる。尚、以下の記号は、「検索」などの際に漏れがないよう、但し書きのあるもの以外は、「半角」で統一することを原則とする。

##### 発話文の認定に関する記号

。 [全角] 1発話文の終わりにつける。

,, 発話文の途中に相手の発話が入った場合、前の発話文が終わっていないことをマークするためにつけ、改行して相手の発話を入力する。

なお、入力の誤りを防ぐために、発話文が終了したラインには「\*」、発話文が終了してないラインには「/」を、「発話文終了」の列に入れる。従って、「。」と「\*」、「,,」と「/」の対応関係をチェックすることができるようにしてある。



- \* 発話文が終了するごとに、「\*」を「発話文終了」セルに記入する。つまり、発話文番号と発話内容中の句点「。」と「\*」の数は必ず一致する。このように、「発話文終了」と「発話内容」と2つのセルで二重に確認する。
- / 発話文が終了していないラインの「発話文終了」セルに記入する。発話内容中の「,,」と「/」の数は必ず一致する。

#### 発話内容の記述に関する記号

- 、 ①[全角] 日本語表記の慣例に従って読点をつける。
- ②[全角] 慣例として表記する以外に、語句の途中、或いは、語句と語句のあいだに短い間があった場合にも「、」をつけて、語句の発音がスムーズでなかったことを記す。
- ‘ ’ ①[全角] 複数読み方があるものを漢字で表す場合、最も一般的な読み方ではなく、特別な読み方で発せられたことを示すために、その読み方を平仮名で‘ ’に入れて示す。
- ②[全角] 通常とは異なる発音がなされた場合など、音の表記だけでは意味が分かりにくい発話は、‘ ’の中に正式な表記をする。
- 『 』 [全角] 視覚上、区別した方が分かりやすいと思われるもの、例えば、本や映画の題名のような固有名詞や、発話者がその発話の中で漢字の読み方を説明したような部分等は、『 』でくくる。
- “ ” [全角] 発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの内容が引用された場合、その部分を“ ”でくくる。
- ? 疑問文につける。疑問の終助詞がついた質問形式になっていなくても、語尾を上げるなどして、疑問の機能を持つ発話には、その部分が文末(発話文末)なら「?。」をつける。倒置疑問の機能を持つものには、発話中に「?、」をつける。
- ?? 確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」につける。
- [↑][→][↓] イントネーションは、特記する必要があるものを、上昇、平板、下降の略号として、[↑][→][↓]を用いて表す。
- 《少し間》 話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際につける。
- 《沈黙 秒》 1秒以上の「間」は、沈黙として、その秒数を左記のように記す。沈黙自体が何かの返答になっているような場合は1発話文として扱い1ライン取るが、基本的には、沈黙後に誰が発話したのかを同定できるように、沈黙を破る発話のラインの冒頭に記す。
- = = 改行される発話と発話の間(ま)が、当該の会話の平均的な間(ま)の長さより相対的に短いか、まったくないことを示すためにつける(ラッチング)。これは、2つの発話(文)について、改行していても音声的につながっていることを示すためである。その場合、最初のラインの発話の終わりに「=」をつけてから、句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。そして、続くラインの冒頭に「=」をつける<sup>5</sup>。
- … 文中、文末に関係なく、音声的に言いよんだように聞こえるものにつける。
- < >{ } 同時発話されたものは、重なった部分双方を< >でくくり、重ねられた発話には、< >の後に、{ }をつけ、そのラインの最後に句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。また重ねた方の発話には、< >の後に、{ }をつける。
- 【 】 [全角] 第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話を終了した場合は、「【 】」をつける。結果的に終了した第1話者の発話文の終わりには、句点「。」の前に【 】をつけ、第2話者の発話文の冒頭には【 】をつける。

<sup>5</sup> 注4と同じ。

- [ ] 文脈情報。その発話がなされた状況ができるだけ思いおこしやすくなるように、研究者の覚書として、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどを [ ]に入れて記しておく。
- ( ) 短く、特別な意味を持たない「あいづち」は、相手の発話中の最も近い部分に、( )にくくって入れる。
- < > 笑いながら発話したものや笑い等は、< >の中に、<笑いながら>、<2人で笑い>などのように説明を記す。笑いが比較的是っきりと聞こえる場合は、「ははははく笑い」のように記す。笑い自体が何かの返答になっているような場合は1発話文となるが、基本的には、笑いを含む発話文中か、その発話文の最後に記し、その後句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。
- (< >) 相手の発話の途中で、相手の発話と重なって笑いが入っている場合は、短いあいづちと同様に扱って、(<笑い>)とする。
- # 聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける。
- [ ] [全角]トランスクリプトを公開する際、固有名詞等、被験者のプライバシーの保護のために明記できない単語を表すときに用いる。

#### コーディングと関係する記号

- & コーディングの際、ライン中に分析対象とする要素が複数ある場合、1つの要素につき1つのコーディングセルが割り当てられるように、各分析対象項目の後ろに「&」をつけて便宜上改行する。

次に、上記の記号を用いて文字化したトランスクリプトの例を提示する(表3)。

表3 トランスクリプトの例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
1	1	*	JSM01	どうも、こんにちは。
2	2	*	JBM02	はじめまして[無声]。
3	3	*	JSM01	<こんにちは>{<}。
4	4	*	JBM02	<どうも>{<}&{<}。
5	5	*	JSM01	どうも。
6	6	*	JBM02	「JBM02 姓」と申します。
7	7	*	JSM01	あ、あのう私、「JSM01 姓」と申します。
8	8	*	JBM02	あ、「JSM01 姓」さん。
9	9	*	JSM01	ええ。
10	10	*	JSM01	あの、お勤めですか<笑い>。
11	11	*	JBM02	ええ、まあ、ちょっと、勤、めてますけど。
12	12	*	JSM01	はあ。
13	13	*	JBM02	え、お、お勤めです、ええ。
14	14-1	/	JSM01	今日は、日曜日で、,
15	15	*	JBM02	あー、大変ですね、っていうか。
16	16	*	JSM01	はあ。
17	14-2	*	JSM01	時間があるっていったら、こういうことになったんですが<軽く笑いながら

				>。
18	17	*	JSM01	はい。
19	18	*	JSM01	あの、普通に、とうきょうで、働いてく【】。
20	19	*	JBM02	】くそうですね、く東京で、ええ、働いています[働いています、ほとんど聞こえないかすれ声で]。
21	20	*	JBM02	東京…で? [→]。
22	21	*	JBM02	ええ。
23	22	*	JSM01	はい。
24	23	*	JSM01	まあ、家は埼玉なんですけれど。
25	24	*	JBM02	じゃ、通い、は大変ですか? [↓]。
26	25	*	JSM01	そうですね、まあ、ふつうの通勤電車に乗って、来るような感じなんですけど。
27	26	*	JBM02	京浜東北か埼京線かなんかですか? [↓]。
28	27	*	JSM01	そうですね、それで、来てますけど。
29	28	*	JSM01	《少し間》あの、どこでというか、働いてくらしいですか? く。
30	29	*	JBM02	くいやく、私、は、自転車で。
31	30	*	JSM01	ああ、いいですね。
32	31	*	JBM02	ええ。
33	32	*	JSM01	私も駅までは自転車なんですけど、そこからさらに電車に乗ってくるんですけど。
34	33	*	JSM01	[録音機の変な音]####ですか。
35	34	*	JSM01	えっ、住まいも東京ですか?。
36	35	*	JBM02	そう、ええ、そうですね。
37	36	*	JSM01	もうずっと…。
38	37	*	JBM02	あ、わたしは、まああの、大学が北海道で(ああ)、ええ。
39	38	*	JBM02	あと、4年ほど鳥取に。
40	39	*	JBM02	関東ですか?。
41	40	*	JSM01	そうですね、あの、まあ、生まれは九州だったんですけど。
42	41	*	JBM02	あそうですか。
43	42	*	JSM01	その次には、もう、もの、思いついたところから、物心がついたところから、もう、基本的には、埼玉育ちで、はい。
44	43	*	JSM01	北海道が、あつても、や、それは4年間行っていただけなんですか? [→][ですか、ほとんど聞えない]。
45	44	*	JBM02	え、そう、そうですね。
46	45	*	JSM01	は一。
47	46	*	JSM01	は一、鳥取というのは、また、かい、会社かなんかで。
48	47	*	JBM02	ええ、まあ、最初の勤め先だったんですけど…。
49	48	*	JSM01	はあ。
50	49	*	JBM02	九州は、どこですか?。
51	50	*	JSM01	あの、北九州の、隣にある、もうがたつところがあるんです。
52	51	*	JBM02	北九州、市…。
53	52	*	JSM01	そうですね(ああ)、はい。
54	53	*	JBM02	もうがた…、分かんないな…[ほとんど消え入りそうな声]。

55	54	*	JSM01	いったことありますか? [->]。
56	55	*	JBM02	いや、小倉、と、北九州、福岡、ちょっといったことあるんですけど。
57	56-1	/	JBM02	最近は何か福岡が、すごいなんていうか、発展して、
58	57	*	JSM01	そうですねー。
59	56-2	/	JBM02	北九州市やなんか、の方は、なんか<軽く笑う>、
60	58-1	/	JSM01	ちょっとさびれてくると<く>、
61	56-3	*	JBM02	<さびれて><く><笑い>。
62	58-2	*	JSM01	言われてたんですけど、あの一何か、モルルールができたりとかして。

### 参考文献

文化庁編(1995)『言葉に関する問答集 総集編』、大蔵省印刷局

文化庁編(1991)『公用文の書き表し方の基準(資料集)増補版』、第一法規出版

日本語教育学会編(1982)『日本語教育事典』大修館書店(「引用」の項、小谷野哲夫執筆、p. 187)

鎌田修(2000)『日本語の引用』、ひつじ書房